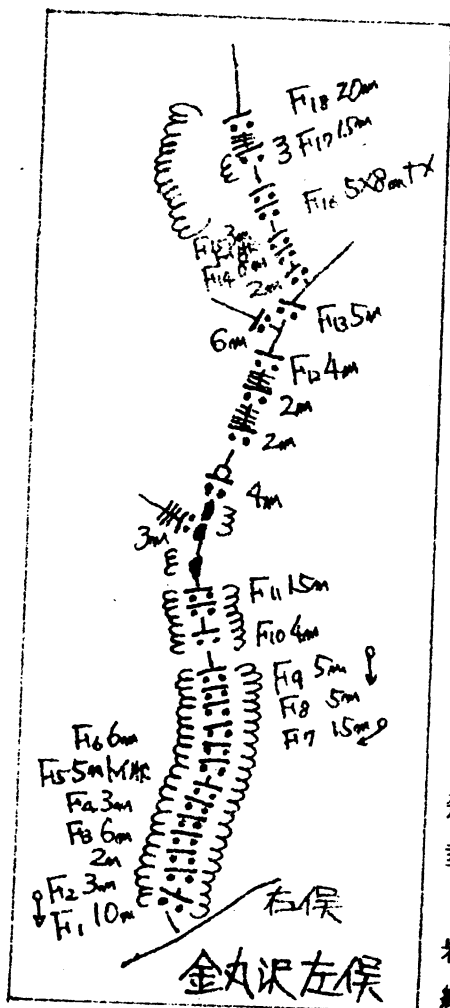


り微妙であり、藪沼を確保する。F₉は登れず、20分程捲いて、3m滝の上に出る。F₁₀は藪沼がなかなか取り付けず、確保して釜を渡らせ、斜瀑を登らせる。C.S.の滝を越えると二俣に着く。右俣出合よりここまで約1kmしかないが、約3時間40分を費やす。遡行継続か、この地点より下山するか検討するが、この沢の下降は危険でまた時間を要するものと判断し、遡行継続を決定した。

この場所で20分休憩し、右沢に入る。次の二俣までわずか300mであったが、小滝が連続し、またF₁₂で直登できず捲いたりしたため、1時間30分を費やす。

14:50,最後の二俣。右俣は水量少なく、ナメ状の急傾斜であり、遡行終了となる。

[タイム] 金丸沢出合(7:40)→二俣(9:05)→左沢出合(13:00, 13:20)→遡行終了(14:50)



金丸沢左俣

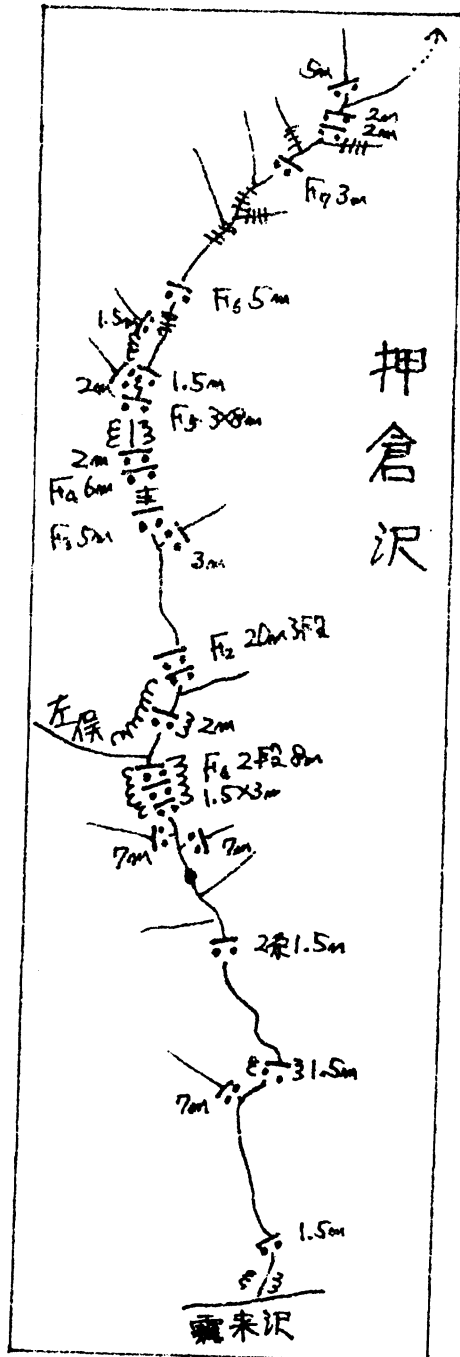
1986年8月23日

押倉沢の遡行終了後、尾根上を吉坂山へ向けてヤブをこぎ、曲がりっぱなの所より下降を始める。沢はすぐに急な岩場や滝、ナメとなって下っている。プッシュを伝いながら下降。滑らないように注意しながらクライミングダウンを繰り返して本流へ。

本流を少し下ると、C.S.滝があって、右岸より支沢が入る。その先からはゴルジュ帯となり、険悪な滝が続く。F₉、F₆とF₇が続くところは、懸垂で一気に降りることができず、F₇の滝上にいったん降りてからハーケンを打ち、下へ。続くF₆ 6mは、右岸より捲く。この後も滝上より飛び込んで泳いで下ったり、ザイルを出して懸垂下降するなど、通過困難な滝が続く。

やがて左俣出合。ここよりしばらくは右岸に岩場をみて、ゴルジュ帯を下る。ゴルジュ帯が終わると、あとは河原状が霧来沢本流との出合

まで続く。アブがうるさくつきまとうので、一気にかけ下る。
 [タイム] 下降点(11:55)→左俣本流(13:00)→右俣出合(15:10)→霧来沢出合(16:05)



押倉沢

押倉沢右俣

1986年8月23日

1

霧来沢との出合はせまく小さなナメがあり、期待のもてる沢だ。F₁までの間に1~2mの小滝が4つほどある。F₁を過ぎた所が二俣。右俣に入る。

右俣に入ると、すぐF₂へ着く。F₂は下から1m, 10m, 8mの3段の滝となっている。中段の滝を右より捲きぎみに登り、上段は左に移って直登する。このあと沢は滝とナメが続く。F₆では、左側に取り付くが、登れなくて、右側を一部チムニー登りして越える。F₃からF₆の間は、この沢でもっとも楽しいところだ。

F₇を越えると、水量が減ってくる。ヤブこぎ20分で、吉三山から三条方面にのびる尾根に出る。

(記)

[タイム] 押倉沢出合(7:40)→二俣(8:40)→遡行終了(10:40)→尾根(11:00)

6. 摺上川流域の沢

中津川左俣

1986年8月3日

1

朝、和泉さん宅によってから出発。中津川